

第4回日本平公園基本計画改定専門委員会 議事録

1 日時 令和7年6月5日(木)午後2時00分～午後4時00分

2 場所 静岡市歴史博物館 講座室

3 出席者 <委員>

五十嵐誠委員長、関貴夫委員、石山千代委員、寒竹伸一委員、平松玲治委員、船戸修一委員、森田明雄委員

<事務局>

杉村緑化政策担当部長、小澤公園建設管理課長、鈴木日本平公園建設室長、藤崎主事、鍋田主任技師、滝澤技師、大滝会計年度任用職員

4 傍聴人 4人

5 議事 (1)開会

(2)議事

基本計画案及び整備・運営の基本的考え方について

・主な体験活動メニュー導入案

・施設概要及び施設配置計画

・動線計画

・景観計画

・緑地保全に向けた取組方針

・整備・運営の基本的考え方(日本平公園における公民連携施設の抽出)

(3)閉会挨拶(静岡市緑化政策担当部長)

(4)閉会

6 会議内容

(1)開会(省略)

(2)議事

<五十嵐委員長>

いよいよこの委員会も第4回目ということで、あと1回を残すのみとなりました。これから説明がありますが、今までいただいた委員からの御意見を踏まえて、一応最終計画の原案なるものが出てくると思いますので、これについて具体的に御意見をいただいて、最終取りまとめに入りたい、と考えております。室長からお話がありましたように、今後委員会でまとまったものをベースにしてパブコメに入るといった段取りのようでございます。そういうことも踏まえた上で御意見を賜りたいと思っております。また、リモートの石山委員、船戸委員、よろしく願います。それでは、これから議事に入りたいと思っております。

それでは、次第にありますように、議事第1、第2、第3、これは本日説明をいただく基本計画案の前提になるものがございますから、これについて御説明をしていただいた上で、基本計画案の説明に入りたいと思っております。よろしく願います。

<事務局説明>

<五十嵐委員長>

ありがとうございました。

非常に短時間の説明で全部を理解するのは難しいかもしれませんが、今まで御議論をいただいたことをベースにして、ここまでまとめられたんだと思います。では、最終案を確定していくに当たります、さらにいい計画になればという視点で大いに御意見をいただきたいと思います。

どこからでも結構でございますが、御質問、また御意見あわせてお願いをできたらと思いますので、よろしくお願いします。

石山委員、船戸委員、よろしくお願いします。

<石山委員>

ありがとうございます。ちょっと大変申しわけないが、オンライン参加させて頂いて大変助かっているんですけども、ちょっと聞き取りづらいところがありまして、もし御説明があって、聞き漏らしていることがありましたら申し訳ございませんが、ご容赦ください。ご説明頂いた資料のどこからでもいいんですか。順番的には後ろの方になってしまうんですが、最も気になって懸念されるところは、公民連携事業のパターン例がグラデーションで 38 ページ前後にあったものと、あと最後の方に場所ごとに公民連携のパターンを土地利用の上ののせて書かれていたものがあったんですが、2つの関係性はどうなっているのかということお伺いしたいと思います。

<事務局>

今の御質問についてなんですけれども、最初の 38 ページの方は、基本的な一つの一般例としてあげさせていただきました。この内、ご指摘のところは 42 ページの図との関係だと思えます。一応、公民連携ということで民間に御協力をいただきたいというのを一つの事業モデルとして絵に描いたのが 42 ページになります。ちょうど真ん中ぐらいの、先ほど言いましたフラワーガーデン等については、ある程度公共の方が優先してこういうものをつくりたいという条件をかなり出しながら民間を募っていくというエリアに考えています。

一方、一番北側のところは、民間の御提案を優先させながら進めていければという意味でのグラデーションになっています。

<石山委員>

ところどころ、聞こえたり、聞こえなかったりなんですけれども、もし差し支えなかったら、さきほどの民間と公共の赤いゾーニング図を見ていただければありがたいんですけども。

-事務局からオンラインで図を示す-

はい。なるほど、分かりました。

民間に任せるところと同じだと思うんですけども、やはり名勝でもありますし、開発圧力がありすぎるのもどうかと思います。大事にしたいところは、民間事業者の方々にわかっているというプロセスを丁寧に、段階的に伝え、計画の見直しとか、市民の意見がしっかり入るように定めておく必要があるのではないかと考えています。

<五十嵐委員長>

石山委員も心配されているように、これだけ見ると、誰が主導権を持ってこの施設を公がやるか、民がやるか、具体的にはなっていないわけですね。中身もわからないので、考え方だけ示したとした方がいいのかもしれないですね。

<事務局>

図には示さないということですか。

<五十嵐委員長>

全体的なプランが具体的に固まったところで、「ここは民間の力を借りる」とか、という考え方を示さないと、皆さん誤解してしまう可能性があると思います。「民間の活力を導入して日本平公園を整備していく」これが基本だということをはっきりさせておけばいいと思います。それぞれの施設については、もう少し詰まってからでないといとも書けないですね。

<事務局>

各エリアでやってしまうと全然調和しなくなってしまうので難しいですよ。段階ごとにですかね。

<五十嵐委員長>

石山委員は、その辺が心配だということでしたが。

<石山委員>

はい。ありがとうございます。もし、可能ならば、歴史的なまちもそうなんですけど、敷地とか地形に沿って、厳密に区切ると、かなり怖い感じなんです。なので、もう少し曖昧に何となく丸くなっているぐらいの方が柔軟に考えられるのではないのでしょうか。あと、「例示みたい。例えばこういう感じ。」とかにする方がいいのかなということが、最後の図については懸念しています。ゾーニング図は、見づらい方が逆にいいので、表現の仕方をちょっと変え、場合によっては重なり合ったらいいですね。私のような観光開発等の分野からすると、大丈夫かなと心配になりました。

さきほどのグラデーションの話も、このどれにするかという決め方と、手続の中でそれをきちんと決めておかないと、もとに戻せないことになるので、そこについてもしっかり担保するような描き方をする必要があると思います。大きく描き直さなくてもできると思うので、考えていただけたらと思いました。

<五十嵐委員長>

やっぱりここは、民間を導入したいという方向性だけは出しておいて、参考事例として「他の公園ではこのようなやり方がありました。」と出すくらいでしょう。ほかにどうぞ。

<関委員>

42ページの将来の公園イメージにおいて、現状、夢テラスを見学される方と、近くのお土産屋さんとかのお客さんが利用している県営の駐車場が公園として整備されるようになっていきます。そして、ちょっと離れたところに新しい駐車場があるのですが、どういう段階を踏んで移行するのでしょうか。公園整備の途中で車を停める所がなくなると、来ていただいた観光客の方が、行き先が分からなくなっちゃうと思います。

<事務局>

お答えさせていただきますが、現在、山頂の静岡県が運営している駐車場は、かなりの時期まで残ると考えています。といいますのも、夢テラスからその山頂の駐車場に至るところぐらいが最終的に手をかける場所と想定しています。先ほど説明にもありましたように、段階的に我々が造ったりとか、第1期の民活導入によって、集客を増やしていく中で様子を見ていく。様子見の段階では、まだ山頂の駐車場が残ると考えています。第2期の民活導入によって、山頂の駐車場はなくなることとなります。ただ、様子見の段階で、当然、第1期の民活導入で、北側の霊峰テラスが出来上がってきますので、下の駐車場は、山頂の駐車場がなくなる時に出来上がっていることとなります。かなりの時期まで山頂の駐車場が残って、最終的な民活導入というところで完全に駐車場は北側に移ることとなります。

<関委員>

ありがとうございます。それと、路線バスの発着場の終着駅は、日本平ロープウェイだと思うんですが、その手前にもバス停が現状あって、42ページの右上に広い駐車場にバスが立ち寄るイメージで大丈夫ですか。

<事務局>

路線バスは今までどおり静岡側からパークウェイをあがってきまして、外周道路を經由して、日本平ホテルさんに行ってから、ラウンドアバウトを經由して園内道路を通過して、ロープウェイに行ってもらおう。最終形はそのような感じです。

<五十嵐委員長>

最終的には、今の駐車場とかががらっと変わって、この計画で言えば、一番北の部分に占めます。あと園内については、園内交通システムをつくり上げて、それで移動してもらおうことを考えているんですね。

<関委員>

わかりました。ありがとうございます。

<五十嵐委員長>

ほかにどうぞ。

<森田委員>

手もみ茶会館がありますよね。景観的にも古くなっているなどの指摘がありましたけれども、資料に「移設の上、改築」と書いてあるんですけれども、これは基本的にはどこかに移り、最終案には反映されていないけれども、これからということでしょうか。

<事務局>

御指摘のように、今、手もみ茶会館さんが、言葉が悪いですけど古くなって、今のところは移転・撤去して頂くことになっております。今やってらっしゃる方が移転・撤去したあと、何らかの形で今のようなお仕事をお続けになるのか、完全に撤退されてしまうのかについては、これからの検討次第なんですけれども、我々の計画の中では、体験茶畑は残そうと思っております。今のお茶会館さんが何らかの形でかかわるとか、あるいは新たなプレイヤーに託すか、あるいは大きなSPCの傘下に入って頂いた方がやるとかいろいろなやり方があるかと思えます。基本的には今の手もみ茶会館の単独での新たな建物というのがちょっと考えづらいです。

<森田委員>

民活さん次第ということですね。

<事務局>

はいそうです。

<関委員>

もう一つ良いですか。25 ページになりますけれども、先程、段階的に駐車場ルートのお話がありましたけれども、現状でありますお土産屋さんとかは、私どものロープウェイと違って自前の駐車場を持っていないので、車を置くのが遠くなっちゃうんで大丈夫なのかなと思います。歩くか園内マイクロバスを使うか、園内カートを使うか。

<事務局>

最終形になったときにと言うことですね。

<関委員>

そうですね。こちらの事業者が優先で民間に任せる部分に入れるのかなとか。私が心配することではないかもしれませんが。

<事務局>

そうですね。我々の考え方として、園内をぐるぐる散策していただくということがあって、駐車場にもものすごく近くなければいけないということではないのかなと思うところではあります。

<五十嵐委員長>

お土産屋さんは、既存の場所で営業は、なしと考えているんですね。

<事務局>

我々としては、ちょっと申し訳ないんですけど、そういう感じですよ。

<五十嵐委員長>

だけれど、それが、もし中途半端だと、大変なことになっちゃいますよ。

<事務局>

お名前出してしまいますけれども、川崎屋さんは今のところは残らないと考えられます。月日星さんは続けたいご意向はおありのようですけれども。そこはただ、我々の公園計画しだいと言うところはお伝えしてあります。

<五十嵐委員長>

このプランは、もうじき明らかにするわけですよ。

<事務局>

そのとおりです。

<五十嵐委員長>

その時に意見出ないですかね。変な話になっちゃったら、せっかくまとめても頓挫しちゃいますよね。

<関委員>

土地は月日星さんが持っている部分もあると思うので。

<事務局>

現在のところ、駐車場の部分のご意見は頂いております。

<五十嵐委員長>

この委員会で「お店を全部取っ払え」という意見が出ているわけではないので。そのところの考え方をちょっと事務局の方でしっかりしておいてもらわないと。「いや、こういう思想でやるんです。お任せです。」と言うならそれで問題はないと思いますが「いや、まだまだ中途半端なままです」というのでは、とてもじゃないけれどもパブリックコメントはできないと思います。

<事務局>

公園計画上は、新たな売店ということで考えています。

<五十嵐委員長>

例えば、そこへ入ってもらおうとか、そういうことは将来あるんでしょうけれども。

<事務局>

SPC に加わって頂くというのが我々の考え方です。

<五十嵐委員長>

それはもう堂々と言っていただけわけですよね。

<事務局>

そうですね。

<五十嵐委員長>

そういうことだそうです。

<事務局>

そこはもう月日星さんにもお話はさせて頂いております。それについての反対のご意見は頂いていない所です。

<寒竹委員>

一回休んでいるので、ちょっと失礼な話になるかもしれないですけども、日本平公園の基本計画の改定の話をする委員会なんですよね。

<事務局>

はい。

<寒竹委員>

そうすると、前の日本平公園の基本計画というのは、どこまで決められていて、さっき言ったように、こんな広いところを一期工事、二期工事、三期工事と言うように分けて、前回の計画が決められていたのか。それとも、先ほど言われたような、資金としてはどういう考え方でやっていけばいいとか、そういうことが述べられているのであれば、それに対して改定していくんですけども、最初の計画というのは、漠然と全体をこういうふうにしたらいよいよねということで決められているのでしょうか。

それをどう改定していくのかが目的ですよね。

<事務局>

現在の計画は、むしろ今お示ししているのよりも、もっとかっちりしています。施設配置が決まっています。

<寒竹委員>

資金計画とかスケジュールがきっちりしているわけですか。

<事務局>

スケジュールというか、ご指摘の一期、二期、三期に分けて、一期では芝生広場等というように決めてあります。

<寒竹委員>

決めてあった場合に、決めないという改定もあるのですか。

<事務局>

決めないというか。我々が大幅に施設配置を決めて。。

<寒竹委員>

いや、施設配置を決めなくてもゾーニングしておいて、「ここから先にやった方が全体の利益に関わります。」と、まず駐車スペース当たりからまとめて、形をきっちり決める必要はないんですけども、理念と言いますか場所をどのようにしていくかということを決めておかないといけませんよね。そうしておけば、デザインの多様性はOKなわけです。だけれども、その空間をどうつくっていききたいかという、私たち静岡市側の考え方を曲げられたら困るわけですね。こちらは施主ですから。これは全体でどれくらいのコストがかかるんですか。

<事務局>

現計画上では100億円です。

<寒竹委員>

100億円ですよね。2つに分けるのか3つに分けるのかとかを、基本計画でセットしないでいいのかと言う質問ですね。なおかつ、今の財政状況からしたら、どうしても市単独ではできないので、県や国から補助をもらうとか、それでも足りなければ民間にどう入ってもらうとかのような「メニューは出して、決めてください。」とこの前言われたような、それは資料として良いのか、と思います。

<五十嵐委員長>

当初あった基本計画に基づいて、事業が少しは進みましたが、それでもう10年以上経って、時代の要求も変わってきているだろう。だから、それを「今の時代に合わせるようにしましょう。」というのが、この委員会だったんです。

<寒竹委員>

その辺の仕分けと言うか。

<五十嵐委員長>

本当におっしゃるとおり、市の覚悟がどこまであるのか。「絵を描いたらそれでいいの。」という話になってしまう。

<事務局>

我々が目指しているところは、この絵をオープンにした時に民間事業者さんが「ここに投資をしたいな。」と思っただけのようなプランにしたいというのが我々の目標です。

<五十嵐委員長>

この絵だけ見せて、民間に言ったって飛びつきませんよ。いや、それよりも、これを市の方で、「この施設については民間入れることができるんじゃないか。」という検討をした上で、いろいろなパターン、やり方があるから、どのやり方で行こうかというのを決めていかないと。

<事務局>

これは、あくまでもサンプルでこういう機能を入れたいんだというところを示して、そこに御提案していただくというつもりでいます。

<寒竹委員>

これを見せて、「良いのができそう。」と思わせるのが目的ですか。それでは、ちょっと民間も入ってみようかと言うことが目的であればそれでもいいのですが。そのために改定する。今までの自分たちだけでやっていたが、広く参加してもらいたいということなのでしょう。

<事務局>

そうですね。基本的には 42 ページのゾーンでかっちりとめている部分があるのですが、我々が取り組むところと、民間事業者さんがおやりになる部分と。。。

<寒竹委員>

いわゆる「公共を主体とする設備と民間を通じてやる設備が、なぜそうなのか。」と理由がないといけません。

それとあと一つ、申しわけないけれども、日本平ホテルは、ある程度描き込むべきですね。あそこ前に駐車場があって、そこに大きな施設物が出てくるわけです。ロープウェイも描き込んでいるわけじゃないですか。

頂いた資料の「風景美術館」ですが、一番目立っているのはホテルじゃないですか。ホテルの形があるわけで、それでこれだけのボリュームのあるものが景観の中に出てくるわけです。そうすると、結局この絵では切られてしまっている。ここではホテルが一番大きく出てきて、その前に彼らも駐車場をしっかりとっていて、その駐車場と私たちの駐車場もシンクロしているわけです。そこでうまく使えるわけです。日本平ホテルの庭は、芝生で何でもここまで作りこまれているわけです。ロープウェイの方は描き込んであって、最初の説明のブルーのことですよね。

<事務局>

わかります。既存のメインの施設で切れてしまっていますね。

<寒竹委員>

私たちが造ろうとしている景色には必ず日本平ホテルが出てくるんです。それを消そうとするのか、活かそうとするのかそういうことをここで考えなくてはいけないですよ。希望としては、ロープウェイ並に描き込んで頂きたい。

<五十嵐委員長>

それは当然意識してやっているわけですよ。今のお話は、日本平ホテルの芝生広場も含めて、景観を作りますとまとめておいたらいいと思います。

<寒竹委員>

芝生広場をどう活かすかと言うのが多分。。。日本平の低層の横に伸びているのが、どちら側に向かっているかとか富士山に向けての大きな四阿だと考えられるわけですよ。

日本平ロープウェイも本当は、図面に載っていない側も景観等を感じられる側ですよ。

<関委員>

そうですね。

<寒竹委員>

だから、ここで切れているわけではないんですよ。

<関委員>

そこから路線が出て、久能山東照宮があるので。。。。

<寒竹委員>

本当だったら、これよりもっとスケールがある所で、日本平ロープウェイはどこにつながっている。それで、ここにある。有度山があって、展望台のポイントがあるわけですよ。そういうもう一つ、上のスケールの物があって、ここに来ないとあまりリアリティが出てこないですね。すいません。

<事務局>

次回最終回になってしまいますから、有度山全体と言うことになりますとね。

<寒竹委員>

資料でありましたよね。「有度山がここにありますよ。」とか。そういうのがこの中に取り込まれて行って、初めて日本平の公園になるわけですよ。そういう具体的な空間とつながることが必要なんです。

<五十嵐委員長>

先ほど説明があったかもしれないけれども、都市計画決定して、公園事業でやりましょうというのが 33 ヘクタール。その外に 88 ヘクタールの計画区域があるわけです。「それもどうすんの。」という話が最初にあったんだけど、その 33 離れて 88 で計画しているのかというときに、やっぱり市としては 33 をやってほしいという話だった。

そこで、33 に絞ってやってきたわけですけども、当然のことにロープウェイさんとか日本平ホテルさんはもう隣接して、しかも動いているわけです。この計画とは一体的に考えていいと思うんですね。

ただ、88 になると、日本平のゴルフ場とかその他のエリアが入ってくる。そっちのことをこの委員会でするかというのが最初にあった。だけれども、「88 は横に置いておいてください。」

という話だったんです。

<寒竹委員>

逆にこういう問題ですよ。答えを出さなきゃいけない時には、いっぱい縛りがあった方が、答えが早く出てくると思うんですよ。それをカットしておく、何でもできてしまうじゃないですか。

だから、やっぱりこのロープウェイというのは、久能山とつながっているということ、ここに来たときに向こうでもわかるような場所に入れるんだ。そういうものを取り出した方が良いんだという意見が出てこないんですよ。

<五十嵐委員長>

その辺は考えているんですよ。この41ページのところにちょっと小さく出ているんだけど、今のページの左側の方ですね、4のところ、その他の観光コンテンツというのがありますよね。ここに、委員がおっしゃっている、「こういう課題が伴いますよ。」という話をつけておくという話になってきているんです。

パークウェイの整備の話だとかは、ほかの委員会でやる。こちらからは意見を出すという話なんです。この33ヘクタールをさらによくするには、周辺でこういうことを考えないとダメでしょという、それはプラスアルファで課題として示そうという考え方なんです。

<寒竹委員>

ここまできたら、整合性というか、今やらなきゃいけないことをきっちりやるかと言うことですね。

<平松委員>

私も事前に読ませていただきまして、随分聞きたいこともたくさんあったりもしたんですけども、その中で幾つか気になったところをお聞きしたいと思います。一つは、前回の話もあって、今回も御説明いただいて、駐車場の立体化の話とあわせて、霊峰テラスが後ろにつながっている構造になっているという御説明がありました。が、そこがもうやる前提としてはそこで進めるのかと思うんですが、やはり景観上も気になるという説明で、「上手い設えをしますよ。」という御説明で、それはデザイン上のことなのかもしれないんですけども、やはりそういうのが市民の立場からすると、多分何か大きな開発に見えてしまうので、公園で立体の駐車場というのはあまりしないことが多いんですよ。ですから、どういうオペレーションでの立体駐車場なのかというのにも気になります。駐車場を立体でやるとなると、結構な投資もしないといけないのかもしれない。今の駐車場って全部無料なんですかね。

<事務局>

はい。

<平松委員>

そうですね。公園の管理をしている側で言いますと、駐車場を有料にすると、公園の収益の中でドル箱になるんです。いろいろな方法で今回パークPFIを想定しているような収益、考えられているじゃないですか。実は、駐車場利用料金の上がりが一番いいという実態があるんです。

例えば、こっちで儲からなくてもあっちで儲かればいい、トータルでみたいな話していましたが、そういうことができるのは、実は駐車場を有料で持っていたりとか、実はそういうからくりがあったりするんです。それを「想定しているのか」、「していないのか」というのもちょっと気になるのと、立体化までして駐車場を造るのでしたら、そういうやり方も想定して、PFI で入ってくる方に「そこもできますよ。」とか、セットにするとか、しないといけないのかなと疑問に思いました。

あと、いろいろと皆さん心配されていたように、市側のこの公園の整備とその後の管理運営というのをどうマスタープランのような形で考えを持っていくのかというのも結構大事で、それが例えば緑地保全の計画なんかを、33 ページですかね。これは PFI で民間に入っていただくような人に「これをやってください。」というのは多分ないと思うので、それはやはり市としてしっかり持って行って、例えば整備する中でいろいろと間伐や剪定したりとかというのが書いてありましたが、それは整備のときにはいいですよ。しばらくたつと絶対伸びてきて、また同じ状況になるときに、その樹林地とかをどう中長期的に管理して、美しい樹林地もしくは竹林にしていくのかみたいなところも、これは市の方で考えないといけないのではないのかなと思っていますので、そういった市がやるべき役割分担、「これはもう責任を持ってやります。」と、その中で民間の方は「この部分をできますよ。」とか、そういうような整理になっていないといけないのかなというふうに思いました。ですから、その PFI のグラデーションの話とかもありましたけれども、あれも民間のかかわり度合いでやっているんでしょうけれども、それも一つの整理だと思うんです。都心部と、このような郊外でやる公園の場合だと、整備手法の条件が全然違いますよね。自然度が高いところの公園なのかどうかとか、そういうものの整理で、だから、この公園では一番この手法が合っているのではないのかとかということにしておいた方がいいのかなと思いました。こういった意見なんですけれども、何か資料を修正するときとかに御参考にしていただければと思います。

<事務局>

駐車場についてお答えいたします。我々、この改正計画での駐車場は有料で考えております。何で2層化かと言うことなんですが、こちらは、これから 20 年後、30 年後の車に関する社会状況を想定して、自家用車での来園が減った場合を想定し、将来的に車での来園が減った時のために、2層に集約して他の土地利用が図れるようにするのが狙いです。

<寒竹委員>

2層の駐車場ですが、北側に既存の駐車場がありますよね。既存の駐車場のレベルと今度やろうとするレベルはどちらが高いんですか。

<事務局>

今度やる駐車場の方が高いです。

<寒竹委員>

高い所に、また高い物を造るのはどうかと言われているわけですね。ここの道を通るときに、両サイドに駐車場があって、心地よく通って行けるように考えるのが基本ですね。

<平松委員>

そこがわかるような絵とか、「こんなふうに見えるんですよ。」ってあると良いかなと思いました。

<事務局>

現在の駐車場は、もともと日本平ホテルさんの駐車場であったところです。駐車場が駐車場になるということでは変わらないのですが、今の日本平の駐車所は、道路からいくとかなり低い所にあります。

<寒竹委員>

左側の駐車場はどうですか。

<事務局>

これはもっと低いです。この道は下がっていますので。

<寒竹委員>

道の両サイドを同じようなボリュームの駐車場がはさんでくるわけですよ。そこを車が通るとい
う時は、本当は両サイドが対照的であれば美しいけれども、斜面になっているから、こういうレベ
ルなのではないでしょうか。

<事務局>

個々の断面図は、段々落ちていきます。ただ、道自体はさらに上を走っているのだから、この辺だと上
に出てきます。

<寒竹委員>

申し訳ないですが、断面図がないもんで。

<事務局>

分かりました。ここからの断面は入れておきます。

<寒竹委員>

そういうのが全部入っていないと。公園はそこでピシッと切るわけではないですからね。公園
の向こう側がどう関係するかが大切なんです。

<事務局>

分かりました。

<寒竹委員>

二階駐車場がどう見えるか。日本平のホテルから見て美しいかどうかということですよ。

<事務局>

こちらの方からは見たのは入れていないので、追加します。

<寒竹委員>

日本平の断面が入っていれば一番いいですよ。

<事務局>

ホテルの所ですね。

<寒竹委員>

そう。ホテルの所です。

<事務局>部長

いいでしょうか。駐車場と霊峰テラスのところが景観的にと言うお話ですが、今、駐車場の話がありましたけど、霊峰テラスも同じようなことなんです。例えば日本平公園や公園外のところから景色を見たときに、例えば建物が突出しちゃっているように見ると「公園として景観的に良くない。」ということなんです。

<平松委員>

そうそう、心配になるので、「そこはしっかりできているんですよ。」とか、そういうことが説明できていた方がいいんじゃないかと思うんです。これだけだとちょっと分からないですよ。

<事務局>

パット見ると3階建てというと、それなりのボリュームがあって景観的に阻害するのではないかとということですか。

<平松委員>

そう思うからなんです。いろいろと説明がありましたけれど、出来上がりの眺望でこんな形に見えますよとか、シミュレーションであるじゃないですか。

<寒竹委員>

それは、この中で決めるのではなくて、誰かがデザインするんですよ。

<事務局>

そうですね。

<寒竹委員>

そうしたら、ここでは3階以上は建てないというのは大きなことです。ここで決めなくてはいけないのは、「駐車場の2階は極力緑化をしなくてはいけない。」とかそういうことです。

<事務局>

例えば、駐車場を公共が造るのか、もしくは、PFI みたいなので民間さんに造ってもらうのか。そういったときに、どういったコンセプトで今の景観みたいのを、どう配慮して造ってもらうのかみたいな。自分たちが造れるにしても、そこら辺を逆にこういう中である程度条件付じゃないですか、条件付けなのかコンセプトなのかを持っておくのが良いんですか。

<森田委員>

いや。コンセプトの風景美術館に合わなければだめですよ。

<平松委員>

そうです。

<森田委員>

だからその時に緑が良いのか、青が良いのか知らないけれども、どういった資料を作るのか、そこがコンセプトじゃないですか。誰が造ろうとしても守らなくてはいけない。

<平松委員>

一番の財産だと思いますから。風景、眺望、景観というものが、それが見えるもの。

<寒竹委員>

これが中途半端なのは、大きな駐車場ではなくて、分散するという方法があったわけですよ。これは、分散しているし、何か大きくまとめているし、自分がここに来て駐車したい時には、とても分かりにくいですね。どこが空いているかわからなくなる。分散するなら、なぜちゃんと分散しないのかなと感じる。分散すれば、先ほど言ったあまり目立たないし、周りに木を植えれば隠れる。だけどボリュームが欲しいから 2 階建ての駐車場なんですよ。潔くそこにきれいに美しい駐車場を造ってみればと思う。

<五十嵐委員長>

この前の計画がまさに大きい平面で取っていたんです。それを検討するにあたって、市の中で大分議論があったんです。「こんな駐車場だめだ。」という話が出たらしいんですね。どこかに集約をっていうところからスタートしたんです。

<寒竹委員>

でかいから分散したんですよ。

<事務局>

分散と言うか、今回計画している駐車場の下部分のエリアとして囲まれている全部が駐車場だったんですね。

<寒竹委員>

でもその下に駐車場があるじゃないですか。分散したら効率が悪いに決まっているじゃないですか。

<五十嵐委員長>

これは日本平ホテルの駐車場ですよ。

<寒竹委員>

二階建てする予定のすぐ南側にもう一か所駐車場があるじゃないですか。

<五十嵐委員長>

あそこは路線バスの停車場ですよ。

<事務局>

大型バスの待機場にしています。

<関委員>

20 ページにある説明ですよ。バス専用の駐車場とありますよね。これ多分、交通誘導員を各交差点につけないと、来た方が分からなくて、ぐるぐる迷い込んでいますよね。

<寒竹委員>

そうですね。分かりにくいですよ。

<五十嵐委員長>

その検討が必要だよ。せっかくまとめたのに。

<関委員>

私、ロープウェイの従業員なんて言うのですが、ロープウェイに来たい人が一番奥の遠くになっているので、真っ直ぐに来れるのかなと言う心配があります。いちいちロープウェイの誘導員が、「ロープウェイあっちです。」と口頭で説明しながら誘導するのはかなり大変だろうと思ったんです。

<事務局>

案内看板は今もありますが、パークウェイから山頂に行って、ゴルフ場さんの三差路に「ロープウェイは右折して下さい。」等の案内看板は今もあります。

<関委員>

静岡側のパークウェイから下から上がってくると、立体駐車場の手前の交差点で入り口がありますよね。

<事務局>

そこを右折して頂く。

<関委員>

そこを来た人が入っていいんだか悪いのだから分からなくて、行くのはいいんですが、それで出口が分からなくて元に戻っちゃわないかと。

<五十嵐委員長>

ロープウェイの駐車場はどこから入るように考えていますか。

<事務局>

そこで右折して頂く。迷わないように路面表示等ができます。

<寒竹委員>

ロープウェイの駐車場は1層ですよ。

<関委員>

1層です。

<寒竹委員>

5層くらいにしたら、5重の塔みたいに。そのような発想も良いですよ。

<関委員>

構造物を造るのはものすごくハードルが高くて。

<寒竹委員>

あそこは、低くなっていますよね。だから。

<五十嵐委員長>

そうすると、文化庁側で問題になります。自然公園法もありますし。

<寒竹委員>

見に来るくらいの美しい駐車場をですね。。。色々な発想をしないと出てこないですから。

<関委員>

山頂一帯の規制がクリアできるのかなとか。

<五十嵐委員長>

風致地区も含めて、かなり厳しいところであることは事実なんですよ。

<寒竹委員>

文化庁は2層の駐車場は許可してくれないかもしれないですよ。

<事務局>

文化庁さんもそうですけれども、風致地区条例で8m以上建てられないので。

<寒竹委員>

これは大丈夫なんですか。

<事務局>

8mまでなんです。この間、駅舎が令和3年に建て替えられましたけれども、その時も風致地区条例でどのようにクリアするかをご苦労されたと思いますけれども。

<五十嵐委員長>

駐車場の問題は確かに、これだけ大規模に現状から変えるわけだから、新しくしたときに「車の流れが、本当にスムーズに行きますよ。」というところは、よく検討しておかないといけないですね。大型バスと乗用車はどういうふうに台数の色分けをしているのかも明確にしておく必要があるんだろうね。

<関委員>

十字路になっている所、事故が起きないのか、大丈夫なのかなど。静岡のパークウェイで下から上がって、最初のT字路で横に入ってくるところで、路線バス滞留場とか駐車場に入る手前の十字路になっているところも信号機が無くて大丈夫なのかな。

<事務局>

バスは基本的には、パークウェイを静岡側から上がってきたT字路と言うか、三差路のところは、そのまま素通りして、ホテルさんの方まで行って頂いて、路線バスの場合はホテルさんに行って、また折り返してきてラウンドアバウトを通過して、中央の園路を直進して、十字路のところもそのまま直進して、ロープウェイさんに行くということになります。基本的には山頂の三差路のT字路のところは、ロープウェイに行く自家用車くらいしか通らない感じになります。その辺の錯綜を避けるというコンセプトではやっています。

<寒竹委員>

駐車場は6箇所あるんですよ。

<事務局>

駐車場として設けているのは先程の。。。

<寒竹委員>

車を止めるスペースが6箇所もあるんですよ。この左側のところに。本来分散させないと。

<事務局>

ただ、一般のお客様が停める駐車場は、あそこのホテルさんの近くの2箇所なんですよ。

<寒竹委員>

あっちこっちにたくさん設けてますよね。

<事務局>

たくさん設けたつもりはないのですが。

<寒竹委員>

3箇所くらいにまとめた方が、先程の交通の迷走はクリアできると思うんですよ。

<事務局>鈴木氏

駐車場を分散させているように見えないような描き方を考えます。

<寒竹委員>

分散するならば美しく分散させてほしいわけです。

<事務局>

基本的には、ここの3箇所をベースにしています。

<寒竹委員>

途中にたんさんなんかあるじゃないですか。

<事務局>

バス待機場以外は管理ヤードです。

<寒竹委員>

庭を3つに分けたのなら、3 つに各1箇所(駐車場が)あればいいのではないかと。3つに分けた意味がないですよ。

<事務局>

見え方をもう少しうまく見えるように工夫します。

<森田委員>

バスの待機場造ったりして、20 台くらい入ったりするじゃないですか。これはバスの利用状況をみてこれくらいの規模としているのでしょうか。

<事務局>

そうです。

<寒竹委員>

図から言ったら上のところに、大きな日本平と私たちがやる駐車スペースがきれいに見えてくるじゃないですか。もう一つは、ロープウェイのところにある駐車場ですよ。その間にたまたま十字路になっている下の、そこに一つぐっときれいに集まっておけば分かりやすいですよ。だから低いところ、中間、一番高い所の駐車場と、そういう風にできるのではないですか。

<事務局>

一番のコンセプトは、ここの日本平上位面と言っている地形をできるだけ元に戻していきたいというのがあります。最大のコンセプトにしています。これは、まさに富士見の景観の方向ですけれども、舗装面をできるだけ避けたかったというのが、こちらに持ってきた大きな理由です。道もこっちに寄せているのもその理由です。ここを一帯にしたい。一つの緑地にしたいというのがあります。

<寒竹委員>

そうすると、路線バスがそこに侵入していかなくてはいけない根拠はあるんですか。真ん中の動線があって左側と右側に分かれているんですよ。右側はきれいに整備したいのに、そこにわざわざ車というかコンクリートというかアスファルトが、なぜ入り込まなきゃいけないのかと。それは割り切って、こちら側のスペースは交通に提供して、「その代わりこちら側の大きなスペースはしっかり自然景観を確保していきますよ。」、駐車場のところは木をいっぱい植えて、「なるべく見えないようにしますよ。」とした方が考え方は、はっきりすると思うんですよ。そこにああいう高い建物を入れちゃうんですよ。あの真中の道の右は基本的に設ける。左はサービスじゃないけれどもみんながアプローチするアプローチスペースを造る。だからサブでも何でもなくてアプローチ玄関があって、庭がこちらに展開するという風に割り切るべきではないでしょうか。ここまで来て、線形を変えるのは大変だから、そういう風にするのであれば、今からでもできるんじゃないですか。それが、こう展望テラスがあって、その外に駐車場と言うか足があって、それが日本平ホテルとつながっている流れができます。そうした方が良くと思う。

<事務局>

基本的には、委員がおっしゃった通りに収めては行こうと考えていたので、この建物はどちらが良いのかはもう少し検討したいと思います。

<寒竹委員>

それと、路線バス停留所をなるべくこちら側に持ってくる。そのエリアは風景美術館にしようとしているところに、路線バスが入ってこない方が良くと思いますけど。

<五十嵐委員長>

それは、検討してみたんですか。

<事務局>

実は、バス停留所等をこっちに入れるというのは、検討しています。

<五十嵐委員長>

あそこは、結構段差があるわけですね。今の駐車場のところと、断面で言うと F-F 断面です。だから「構造物の駐車場をやってもそれより上には出ませんよ。」という話になっていましたよね。

<事務局>

霊峰テラスも上から見ると平屋というか 1 階建てなんです。下側の大きな芝生広場から見ると、3 階建てですけど、バス停留所から見ますと 1 階建てです。まさに F-F 断面です。

<五十嵐委員長>

今の話と、「中央のバス停留所をどうするの。」という話で検討してみたら。

<事務局>

先程のバス停は事前に小野委員からも御指摘いただいて、灰色のところは茶色か緑色になる方向で考えています。

<五十嵐委員長>

それと多分 3 階建てというのは公園センターですね。名前が変わってくるけど。ここで「3 階建てです。」と言う必要はないんだよね。公園センターをつくるというのは前からあったから。

<平松委員>

私もそう思います。

<事務局>

3 階建てのいい悪いは別にして、駐車場側とその上の高さの間に何か構造物を入れて、バリアフリーにしてストレートに上げたいというのが、一つの大きな目的で、そこに建物を置いたということです。

<五十嵐委員長>

いずれにしても将来 3 階になるかわからないけれども、デザインも考えなくちゃいけないんだから。「公園センターというものが、この辺にほしいです。」という話にしておいたらいいんじゃないかと思うんです。

<森田委員>

コンセプトと言うのは先程の通りで、公園の真中のところは大事にしていく。その外側にテラスがあって駐車場があってという機能を分けてやるというのは一つの大きなコンセプトだと思うんですよ。

<五十嵐委員長>

前の計画とは全然そこが違いますから。市の中でも激論があってこうなったんだと思うんです。

<森田委員>

見た感じでは、その部分が風景美術館のコンセプトを活かしたいというのがよくわかる。

<寒竹委員>

だから日本平ホテルもずっとつながって、なおかつロープウェイもその中で軸というか流れがきれいにできてきますよ。

<五十嵐委員長>

今おっしゃった話を書いた方がいいですね。寒竹委員の言うとおりでと思う。それで少し広げて絵を描いた方が良く。それからロープウェイの方も、せっかく今後のシナリオとして「もっと久能山とつなげましょうよ。」という話があるわけですから、少し広めにとっても良いのではないのでしょうか。

船戸先生聞こえています。ご意見がありましたらお願いします。

<船戸委員>

私自身、駐車場だとかそこに行くアクセスの交通の問題は詳しくないんですが、私自身がコモンズという専門分野で参加しているので、その観点から言うと、今回この資料の中で、ちょっと私が以前いただいた資料と、ページ番号が前後しているのかもしれませんが、以前いただいたのだと12ページになっているんですけども、取り組みの方針、計画フレーム、主な利用層というふうに書いてあります。あと、今日の説明の中に、私の方の資料で16ページになっていますが、それぞれのターゲット層別の主な体験活動メニューというのが細かく書かれていて、以前、この委員会の中でも、ターゲット層というか、プレイヤーを細かく見た方がいいんじゃないかという議論があって、今回このアンケートが出てきて、よりこの辺がクリアになったのかなというふうには思います。ただ、1点、やはり利用する方が、このアンケートを見ても静岡市民がベースになるのかなというふうに思っていて、そう見ると、やはり市民の分け方自体が家族連れ、ファミリー層、高齢者層、カップルになったかなど。それで、ここでお茶積みの体験ができたりすると、この計画の中でエコツーリズムと書いてありますけれども、グリーンツーリズムということも考えられるし、そうなると学校教育ということも切り離せない。だから、そういう意味では、以前も言ったかもしれませんが、市内の小学校、中学校、あるいは幼稚園、保育園、そういった人たちにも、いろいろメニューを提供できるのではないかなと思ったので、そこも入れてみてはどうかということをちょっと提案しておきます。以上です。

<五十嵐委員長>

ありがとうございました。今のお話は、ぜひやってもらったらいんじゃないでしょうか。

石山委員、何かどうぞ。

<石山委員>

ありがとうございます。先ほどからの駐車場関係で細かい交通計画的な部分は、詳しくはないんですけども、一方で、環境保全のための空間的な仕掛けでもありと同時に、財源にもなる重要な所です。駐車場だけではなくて、今回有料施設もいろいろ増えるということで、稼ぐ施設の計画みたいな印象もあるんですけども、それだけじゃなくて、そういうものを造るのであれ

ば、ここで稼いだ収益とかを日本平の環境保全のためにストックしていくような何らかの仕組みみたいなものをつくっていくようなことも全体として何か考えていくみたいなのも持続可能な管理の仕組みではないかと思うんです。その辺まだ考えていないのかどうか。新しい仕組みを作るのは大変かもしれないんですけども、チャレンジしてもいいのではないかと思います。国立公園みたいな規模のところでもやっています。都市公園で名勝となると独特ですので、難しいかもしれないですが、何か新しい仕組みとして生み出せたらいいのではないかと思います。

また、その運営関係で言うと、やっぱり市、事業者、あとは特にこの場に関係のある色々な市民団体、市民の方が、協議しながら行動していく管理の仕組みみたいなのが、あまり見えないなと思ったので、それが入っているといいなと思いました。

あとですね、やっぱり全体のお話を伺っていて、楽しそうなんですけれども、やっぱりますます大開発計画の印象が拭えなくて、そのときに、翻って基本テーマのところってやっぱ8ページだと思うんですけども、みんなが読むところなのにちょっと日本語が変なのがどうにかしなくてはいけないと思います。ここの「驚き」とか「非日常感」みたいなのが、どんどん開発を許容してしまうようなどうとでも読み替えが効く何かちょっと濃いキーワードが入ってしまっているのが懸念されるかなというふうに思いました。

多分、この計画の大事なところは、これまで大事にしてきた文化財的価値を尊重しながらも、市民の日常を豊かにする都市近郊のレクリエーションの場ですね。実際にアンケート調査でも身近な人にとって大事かということが今回そろっています。それに加えて、「①観光価値」、「②文化財的価値」、「③市民の日常を豊かにする価値」のこの3つを同時に満たすところを創って行くことが新しいし、この計画の面白い所だということを言いたいと思っているのですが、それがすごくわかりづらくなっているのもうちょっとシンプルに余計な言葉を除いて言う。あとは3つも要素をベン図(Venn diagram:複数の集合の関係や、集合の範囲を視覚的に図式化したもの)なのか文化財価値が基礎になって積み上げていくピラミッド型なのかは、そこは議論が必要だと思いますが、分かりやすい図で示すことで、3つの価値のバランスを大事にしていることが伝わらないと「驚き」とか「非日常」とか「体験」とかでですね。「体験」を「アクティビティ」と言ってみたりして、そこも言葉が混乱しています。この基本テーマのところを誤読されないような、かつ現代的で大事だと思わせるようにあらためて精査しないと、誤読があり得るし、これから民間がどんどん入って来てしまって不幸せなことになるのではないかと怖く思っていたところです。

<石山委員>

あと小さい事なんですけど、「体験活動メニューの導入」のところに色々書いてあるんですけど、これは今あるものなのか、それがバージョンアップしたものなのか、完全に新しいものなのかというのが、よくわからなくて、「こんな新しいものをどんどん入れるのか。」という感じだったので、多分今あるものなのか、今あるものを活かして、よりバージョンアップしていくものも含まれていると思うので、それもわかりやすくしていった方がいいかなと思います。

あと、吟望台と有度山の吊り橋開発計画が26ページぐらいのところにあったかと思いますが、昔からある話なのでしょう。それとも今回出てきたのでしょうか。これは、さらに大開発だなと思っていて、ちょっとびっくりしていたんですけども、されているということもですね、私も事情を詳しくないので、非常にびっくりしたので、もし何かあれば教えて頂ければと思いました。時間がない中で失礼しました。ありがとうございます。

<五十嵐委員長>

ありがとうございます。今の話は、有度山の話と絡むんですね。

<事務局>

そうですね。つり橋の話は、平成 18 年に基本構想を作っているんですけども、その時に入っていたんです。そういう意味では、その時だけあったプランです。今回あらためて再掲載したんですけども、ただこれについて一番重要なのは、有度山山頂というのが、実は非常にいいところで、まさにその 1 点で、全てが見れる可能性がある場所なので、ぜひここにお客さんを誘致したいという思いがあります。例えば、登山道を少し整備するとか、そういう方法でも構わないので、ぜひ、有度山山頂をコンテンツの中に加えたいというのが今回の計画の趣旨です。

<五十嵐委員長>

今の話は、さっきの日本平ホテルも一緒に書きましょうという話と連動している話ですね。

一番は、この資料自体が民間を入れるという部分を書き過ぎじゃないか、ここは「今後の課題でこういう手法を考えられますよ。」という話にまとめるのだと思うのです。それから、動線計画と駐車場問題、これは寒竹委員からも御指摘があったように、あそこにまとめてやるんですよというところに、それを皆さんに理解してもらえるような詰めは必要だと思う。それに関委員からの「ロープウェイは、捨てられたとかっていう。」について、ちゃんと考えないといけないと思います。それで、動線計画で、「新しいプランの 2 層型の駐車場にした場合だったら、こんなにスムーズに行けますよ。」とか、そういう説明もないとなかなか受け入れられないと思います。

それと、やはり大型バスと、乗用車の収容時の分け方ですね。同じところに入れたら、やっぱりこんがらがらんんじゃないかという感じはするんですね。この辺はちょっとよくわからないところがあるので、ぜひそこを検討してほしいなと思います。

それから、これも関委員が言われた、既存のお土産屋さんとかが、整理された計画になっているが、これでいいのかという、これはもう与条件みたいな格好で作業が進んでいると思うので、市はよく打ち合わせして、どういう進め方をするか決める必要がありますね。

<関委員>

あと、民間がどこから入れるのか、それがわからないと。。。

<五十嵐委員長>

基本的に事業が始まる前ですよ。それは、ぜひこういうプランで市がいくということになってからのスタートですよ。だから、「この施設については民間活用やりましょう。」という市の意見がまとまれば、どういう格好で取り組んでいくかという話になってくるんだと思うんです。

<関委員>

これだけのものを造るとお金がかかりますけれども、多分維持するのもすごいお金がかかるし、その維持費のための収益出していないかと考えないと、手入れしないと雑草は生えるし、木は見苦しくなってしまう。

<五十嵐委員長>

それは、まさに「駐車場を有料にします。」という話がありますから、そういう話と絡めるんですよ。それから、石山委員が言われたように、「収益が相当上がったんなら日本平公園の環境保全に役立つ仕組みまで考えていたらどうですか。」という、これもこれからの課題でしょうけど。

<関委員>

あと、最初のコンセプトにあったのが、現状の滞留時間が短いので、長くいてもらいたいという。そうすると、お客様の回転が悪くなると、やっぱり駐車場の問題がまた出てくると思います。将来的に駐車場施設が足りなくなる。

<五十嵐委員長>

あるかもしれませんね。

<関委員>

上手くいくと今度それが絶対出てくる。

<五十嵐委員長>

それよりも 100 万人を 200 万人にしたいという計画だから、もし 200 万人が来ちゃうとパークウェイがパンクしちゃいます。

<関委員>

道路がそうですね。

<五十嵐委員長>

そうすると、「パークウェイの取りつけ方をどうする。」という話も市に考えてもらうことになるわけですね。

<関委員>

今でも、清水港にクルーズ船が来て、私ども助かっているんですけども、ただ、バスの台数が多いと一般の乗用車の駐車スペースをつぶして、そこへバスを並べるという対応をしなくてはいけない時期もあるので、その辺もどうなのかなと。ますます来るようになると大丈夫なのかなと。

<五十嵐委員長>

そう思いますよ。市としても今まで観光という面で力点が入っていなかったけれども、ここを中心にして何とか静岡市の観光を発展させようという話が考えられていると思うんです。そういう点では、東京の方に住んでいて、バス旅行の行き先として日本平が入っているケースが結構増えてきているんですよ。そうなってくると、今、関委員が言われたようなことが考えられる、そうしていきたいなと思いますよね。周辺との結びつきや、ルートを新しく提案できるかみたいな話と結びつくといいと思います。

ほかにありませんか。

<寒竹委員>

「風景美術館」でやるのですよね。ちゃんとした美術館は、ミュージアムショップが充実しているわけですよ。ミュージアムショップを楽しみにしている人は、多いんですよ。

<五十嵐委員長>

おっしゃるとおり。それでもう一つは、ちょっとこれ書いてないんだけど、夢回廊と公園内の施設との役割分担を考えておく必要がある。夢回廊は、今、人が来ているが、あのタワーの中側は何となく寂しいですね。この公園ができたとき、どういう役割分担でやっていくかということを考えるべきですね。

それでどうします。結構、今日いただいた御意見だと、もうちょっといじらないといけませんかね。

<事務局>

修正させてもらって、5回で収まらないようでしたら。。

<五十嵐委員長>

要するに、パブコメするには、今の段階では中途半端という感じがする。最低限、絵で示すとしたら駐車場計画をご了解得た上でやらないと。

<事務局>

パブコメは5回目が終わった後に予定しています。5回目次第かと思います。

<五十嵐委員長>

これをベースにパブコメをやったら何を市民に聞くんですかになってしまうので。。

<事務局>

5回目やった後にパブコメですので、5回目がどこまでやっていけるかによります。

<五十嵐委員長>

事務局は、そういうことのようなので、今日いただいた御意見を踏まえてですね、また厳しい意見が出るかもしれませんが、5回目を一つよろしく願いしたいと思います。

ちょっと時間が過ぎましたけど、これでこの委員会を終わりたいと思います。事務局、どうぞ。

<事務局>

委員の皆様、本日は大変お忙しい中、長時間にわたるご審議ありがとうございました。本日の会議は以上でございます。ここで事務局より1点ご連絡させていただきます。次回、第5回の委員会は、次第の下段に記載のとおり、令和8年1月23日(金)の午後(14:00から)を予定しております。

(3)閉会挨拶(省略)

(4)閉会(省略)

【議事録署名人】

委員長

委員
